

人材養成目的

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

看護学類

College of Nursing

学士(看護学)

■ Bachelor of Science in Nursing

人材養成目的

広い教養と深い人間理解を基盤に、人々のニーズに合った質の高い看護を提供し、保健・医療・福祉チームの一員として協働できる優れた看護職を育成するとともに、保健医療分野における行政官、国際的な視野に立った看護職など、広く社会に貢献する人材を養成することを目的とします。

求める人材

科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、看護学に関する深い興味と関心が有り、新しい保健医療福祉を支えるための看護について探求し開発できる能力と意欲を有する人材を求めています。

卒業後の進路

平成30年度卒業生の約73%が看護師等として病院等の医療施設へ就職、約15.4%が保健師や養護教諭として行政・教育機関・企業へ就職、約9%が大学院等に進学しています。尚、約2.6%の学生が卒業時の段階で進学準備中、又は、就職活動中でした。病院で働きながら大学院で学んでいる方もいます。看護師・保健師国家試験合格率はほぼ100%です。

職業人養成(看護師、保健師)

看護学類(学士課程)

4年

高度専門職業人養成

大学院進学例1

▼
看護実践経験
3～5年

▼
看護科学学位
プログラム
(博士前期課程)
2年

大学院進学例2

▼
看護科学学位
プログラム
(博士前期課程)
2年

▼
看護実践経験
3～5年

教育者・研究者養成

看護科学学位プログラム
(博士後期課程)

3年

就職先の例

筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、虎の門病院、国立がん研究センター病院、聖路加国際病院、行政保健師、産業保健師、養護教諭

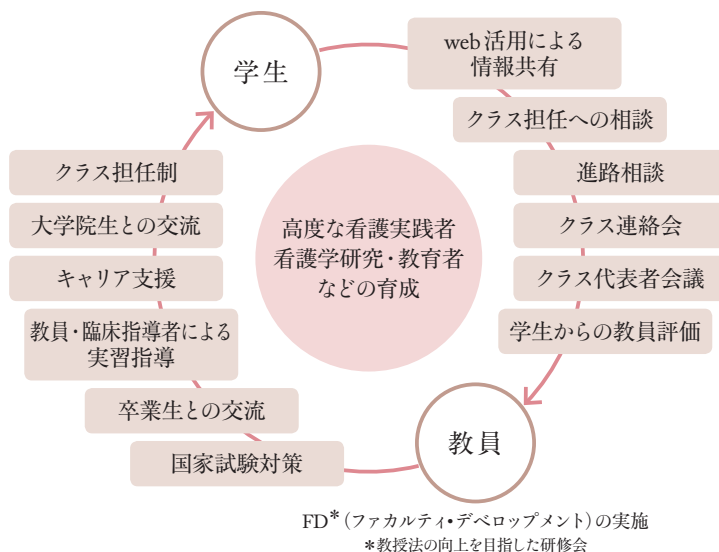
*大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラムでは、筑波大学附属病院との教育・実践連携を行っており、働きながら看護科学学位プログラム博士前期課程を修了可能なコースを設けています。

教育の質の保証と改善の方策

学生主体の授業評価を実施し、学生からの意見を、クラス連絡会(クラス担任制を行っているため可能となる)を通じて教員にフィードバックし、教育の改善に役立てています。

また、教育の質を保証するために「医学教育企画評価室」を設置し、専門の職員を配置してカリキュラムのプランニング、各種教育プログラム実施支援、評価などの支援を行っています。具体的には、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画(チーム医療に関する医学群3学類合同コースなど)、評価結果に基づく現行のプログラムの改善、チューター養成、教員研修会、卒業生のフォローアップ調査などを実施しています。

看護学類における教育の質の保証



学士（看護学）

Bachelor of Science in Nursing

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

■ 教養教育（リベラルアーツ）の学習に裏付けられた専門科目を修得している。

■ 科学的根拠に基づいた知識・技術、および高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度を身につけている。

■ 自ら新たな知識・技術を学ぶ態度と習慣を身につけ、未知の問題を解決する能力を獲得している。

■ 生涯にわたって自己学習を継続する能力を備えている。

■ 国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針

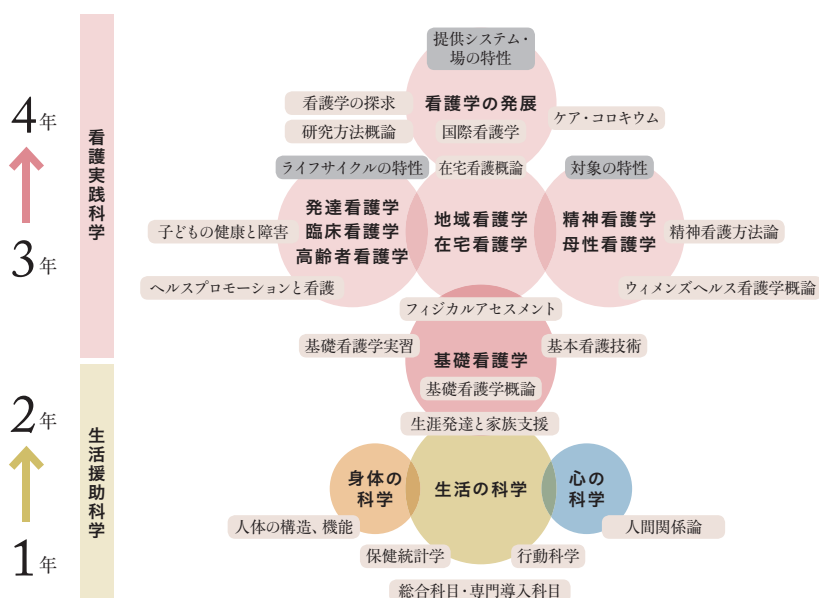
学士（看護学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職の臨床看護スタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実在即した実践能力の向上を目指した教育を行なっています。また、実習においては附属病院、県内の施設との連携を深め、最新の医療・ケアの体験を通して学ぶ機会をつくっています。

順次性に関する方針

1年次・2年次では、看護の専門的な役割理解を中心に、看護の基盤となる「生活援助科学」を学習の起点とし、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目を充実させ、広い視野に立って看護学の専門性が理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、看護実践科学（臨床看護学、精神看護学、高齢者看護学、母性看護学、発達看護学）の学びによって、各分野のエビデンスに基づいた高度専門技術を学修します。学修支援として、客観的臨床実技試験（OSCE）などを実施し、技術習得の向上を図っています。また、地域看護、在宅看護の学びによって、



学士（看護学）

Bachelor of Science in Nursing

達度を客観的に評価します。

高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度は、専門基礎、専門科目の講義、演習も試験やレポート等により客観的な評価を行い、また実習のなかでは複数人の担当教員により到達度を評価します。

学習に対する主体性や未知の問題の解決能力、生涯にわたる自己学習を継続する能力は、専門科目である看護学の発展領域の科目の学習成果ならびに看護学の探究演習で評価します。

国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探究する能力は、国際保健学、国際看護学等の試験やレポート等により客観的に評価します。

特色

看護の専門性に合わせてコース選択を行うことができます。つまり看護師免許の受験資格は基本的資格要件として全員が資格取得可能なカリキュラムとし、その他、保健師コース、養護教諭コースを選抜制で設けています。

